

～福島県の10代・20代が語り継ぐ震災の教訓～ 伝承映像『震災アーカイブ「未来へつなぐ 語り部の声」』 最新作を2025年9月に公開

JCOM株式会社(J:COM、本社：東京都千代田区、代表取締役社長：岩木 陽一)は、震災から得た教訓や経験を、地域の防災・減災に繋げるべく、伝承映像『震災アーカイブ「未来へつなぐ 語り部の声」』最新作を2025年9月4日(木)より特設サイトにて無料公開します。本作は東日本大震災の伝承を行う語り部の中でも若年層に焦点を当てた映像です。福島県いわき市出身でアイドルグループ「アップアップガールズ(2)」の高萩 千夏さんが案内役として語り部の皆さまに会いに行き、共に言葉を紡ぎます。



『震災アーカイブ「未来へつなぐ 語り部の声」』は、災害からの学びや教訓を次世代につなぐ「伝承活動」の重要性に焦点を当て、2021年からJ:COMが震災伝承の連携組織である公益社団法人3.11メモリアルネットワークと協働し語り部の方々の映像を配信している取り組みです。これまで、地域で伝承活動が続ける語り部の方々を中心に未来へ向けたメッセージをいただいております。一部内容は映像教材として教育現場や企業内研修でも活用されています。

9月に公開する最新作は、福島県双葉町の東日本大震災・原子力災害伝承館で働き、語り部も行う20代若手職員のお二人の活動の様子や想いを取材。震災当時小学生として感じたこと、福島のこれからについて語っていただきました。また、福島県いわき市の中学校における生徒三人と担当教員の方の取り組みも取り上げます。震災後に生まれ体験していないからこそ、震災を学び、語り継いでいくことの大切さに気づいて始めた活動の様子や想いを聞きました。

この活動をより多くの方へ届けるべく、震災当時、いわき市の中学1年生だった高萩 千夏さんがレポーターとして、語り部の皆さんの想いに寄り添います。若年層の観点で、また、同じ表現者として真剣に語り部に耳を傾ける高萩さんが当時の想いを振り返りながら語り継ぐことの大切さを伝えます。

【高萩 千夏さん(アップアップガールズ(2))のコメント】

今回の撮影を通して、福島出身であり、震災の経験者でもある私にも勉強になることがたくさんありました。語り部として、私と同世代の人が頑張っている姿に心を打たれました。その想いを皆さんにも受け取っていただきたいです。そしてアイドルである私が加わることで、この動画を見ていただける方もいらっしゃると思います。できるだけ多くの方に届くことを願っています。

2025年度は本作を含め計4本の震災アーカイブの作品を制作・公開予定です。東日本大震災から14年経過し、災害に対する危機感の薄れや震災の教訓を語り継いでいく継続の難しさが課題として上がっています。災害への備えや発災時の行動をより多くの方に今一度見直してほしいという想いから、これからもJ:COMは震災関連の映像制作・情報発信を行ってまいります。

◆語り部による伝承映像（2025年9月公開最新作）

映像タイトル	『震災アーカイブ「未来へつなぐ 語り部の声～福島県浜通り編～」』		
特設サイト	https://www.jcom.co.jp/corporate/sustainability/community/disaster_prevention/voice		
レポーター	高萩 千夏さん 福島県いわき市出身。 地元福島でのアイドル活動を経て、2017年2月にアップアップガールズ(2)の初期メンバーとして加入。リーダーを務める。 震災当時は中学1年生で、1か月近く東京での避難生活を経験。		
内容	福島県双葉町といわき市で伝承活動に取り組まれている若手語り部の方々の活動や想いを取材。 東日本大震災・原子力災害伝承館(双葉町) ・遠藤 美来さん(いわき市出身) 震災直後に東京へ一時避難、高校時代の地域の高齢者とのふれあいをきっかけに伝承館へ就職し、避難で感じたことや福島未来を語る。 ・横山 和佳奈さん(浪江町出身) 震災当時は小学校6年生。津波で祖父母を亡くした経験をもとに、日ごろの備えの大切さを語る。 いわき市立中央台南中学校(いわき市) ・語り部講座で活動中の中学生語り部たち 震災の年や震災後に生まれ、学校での学習を通し震災を語り継いでいくことの大切さに気付く。家族の体験を聞き、それを自分の言葉で語る。 ・亀岡 点先生 いわき市立中央台南中学校の有志で「中学生語り部講座」を実施。活動の調整や生徒への支援を行う。		
公開日	2025年9月4日(木)		

J:COMのサステナビリティ

J:COMでは、事業活動を通じたサステナビリティ経営を推進しています。お客さまの豊かな「暮らし」を支える企業として、持続的な「地域社会」へ貢献を行い、その土台である「地球環境」と関わるすべての「人」を対象として、4つのマテリアリティと、さらに具体化した12のサブマテリアリティを2023年度に再設定しました。

＜本事業と関連するマテリアリティ＞

マテリアリティ:「安心安全で持続可能な地域社会への貢献」 サブマテリアリティ:「安心安全な街づくり」



自治体・パートナーと連携し、日ごろの備え、発災時の災害情報発信、復興支援まで災害から地域を守る活動を実施し、また、警察署などと連携して特殊詐欺をはじめとする各種犯罪の被害防止に関する活動を推進します。防災・減災・防犯に関する取り組みを通して安心安全な街づくりへ貢献していきます。

創立30周年を記念して特設ページを公開しております: <https://www.jcom.co.jp/special/30th/>